

# 年頭所感



一般社団法人 家畜改良事業団  
理事長 伊地知 俊一

新年明けましておめでとうございます。皆様には常日頃より、家畜改良事業団の業務に格別のご理解、ご支援を賜っておりますことに対しまして心より御礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大が第3波から第5波に及び一昨年を大幅に上回る厳しい状況になりましたが、ワクチン接種等が進み、年末には国内の感染状況は沈静化しました。しかしながら、新たな変異株の世界的な発生や第6波の感染拡大への懸念などまだまだ油断のならない状況が続いており、皆様方もお仕事を遂行されるうえで大変なご苦勞をされていることと拝察いたします。

我が国の畜産を巡る情勢につきましては、昨年の2月1日現在の牛の飼養戸数は乳用牛が4.2%、肉用牛が4.1%それぞれ前年から減少となりましたが、飼養頭数については、乳用牛が4年連続の増加、肉用牛についても平成29年以降回復傾向が見られます。このように乳用牛、肉用牛の頭数に回復の兆しがみられる中、新型コロナ感染症の日本を含む世界的な感染拡大が牛乳製品や牛肉の需給関係に大きな影響を及ぼしています。巣ごもり需要で家計消費は増加していますが、インバウンドを含む業務用需要等は減少しており、乳製品の在庫の増大、生乳の年末年始の出荷抑制対策等が講じられることになっております。

このような状況に対し、政府による各種対策が講じられていますが、当団と致しましても家畜の改良と関連業務を通じて、畜産農家の収益性の向上、経営体質の強化を支援し、我が国畜産の生産基盤の強化に寄与していく必要があります。

このため、本年も引き続き、効率的な優良種畜の選抜、作出のための乳用種雄牛後代検定事業、肉用牛産肉能力平準化促進事業、酪農経営改善のための乳用牛群検定を推進するとともに、ゲノミック評価の活用や性選別精液、受精卵の供給等、特に農家の収益性向上に役立つ、より付加価値の高い商品、サービス、技術の提供の強化が重要だと認識しております。

ゲノミック評価技術は、特に、若い雌牛の遺伝的能力の把握に有効であるため、酪農家や肉用牛繁殖農家が雌牛の遺伝的能力を早期により正確に把握し、種雄牛のゲノミック育種価を踏まえた交配を行うことで、優良な後継牛の確保だけでなく生産される肥育用素牛の遺伝的能力を効率的に高め、販売価格の上昇により収益性向上を図ることが期待できます。

乳用牛のゲノミック評価は平成25年から泌乳形質や体型形質、繁殖・管理形質等について、独立行政法人家畜改良センターが実施し、酪農家での利用が可能となっています。

当団では肉用牛について、平成30年に枝肉6形質について、また、令和元年には牛肉のおいしさの要素といわれているオレイン酸などの脂肪酸組成形質のゲノミック評価技術についても実用化し、評価の受託を行っています。

また、当団ではゲノミック評価を生産現場でより多くの農家が収益性向上、経営改善に活用していただくための活動を展開しております。その一つとして、Webでこれらのゲノミック評価結果の最新情報を常に閲覧し、評価を実施した牛、牛群全体のゲノミック育種価の一覧表示や各種グラフによる分析や交配種雄牛の選択とその産子の能力予測を可能にするシステム、「肉用牛ゲノミック評価Web情報提供サービス (G-Eva: ジーバ)」を運用しており、今後も、ゲノミック評価等の具体的な利用法の情報提供等に努め、利便性の向上を図っていくこととしております。

性選別精液については、酪農家がX精液によって後継牛を効率的に生産するために有効であり、空いた腹に和牛の受精卵や和牛のY精液を使って、より付加価値の高い和牛や交雑種を生産することで収益性の向上が可能となります。また、和牛繁殖農家もY精液を使って、雌より市場価格が高い雄の肥育用素牛を生産、販売することで収益性の向上を図ることが出来ます。

最後になりましたが、皆様の引き続きの当団業務へのご支援ご協力をお願い申し上げますとともに、今年一年が皆様にとってよい年となりますよう祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。